

昭和四年十二月十三日招集（第一号）  
第四回市議定会定例会會議錄



館山市議会第四回定例会議録(第一号)

昭和四十一年十二月招集

十二月十三日(火曜日)

一、現在議員三十四名でその氏名次々とおり、

一番	吉田 勇治郎	二番	鈴木 正一郎
三番	小柴 孝	四番	館石 伝蔵
五番	田中 祿郎	六番	秋山 大三郎
七番	田村 源治郎	八番	望月 照正
九番	安西 益男	九番	辻田 実
一二番	石井 正	一三番	菊井 敏博
一四番	志村 信作	一五番	小沢 恵太郎
一六番	関 武夫	一七番	黒川 佐太郎
一八番	西村 真次	一九番	藤田 好治
二〇番	保科 忠夫	二一番	江田 徳太郎

一 議事日程

二二番	君塚喜三	二三番	中村省吾
二四番	島野茂樹郎	二五番	荻生田七郎
二七番	鳴田 繁	二八番	山田教宇
二九番	鈴木市蔵	三〇番	安藤竜吉
三一番	安天徳順	三二番	三 次 節
三三番	高橋文治	三四番	山 本 昇
三五番	松本藤太郎	三六番	山 口 康
認定第一号	昭和四十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について		
認定第二号	昭和四十年年度館山市公益質屋特別会計歳入歳出決算の認定について		
認定第三号	昭和四十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について		



認定第四号

昭和四十年年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和四十年年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第一

認定第六号

昭和四十年年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和四十年年度館山市館山ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第八号

昭和四十年年度館山市上水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

第三議案第五号

館山市市税条例の一部を改正する条例の制定について

第三議案第六号

館山市青年館の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

第四議案第六号 館山市部課設置条例の一部を改正する条

例の制定について

第五議案第六号 昭和四十二年十二月と支給する期末手当の特例に

関する条例の制定について

議案第六十号 昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

第六議案第六十号 昭和四十一年度館山市国民健康保険特別会計補

正予算

議案第六十号 昭和四十一年度館山市と畜場特別会計補正予算

二 法律百三十一号による出席説明員

市長 本間 譲

助役 小出 武男

収入役 完戸 貴

秘書課長 小倉 登男

企画課長 谷貝 茂生

庶務課長	財政課長	市民課長	調査課長	収納課長	商工観光課長	農林水産課長	土木課長	建築課長	衛生施設課長	保健衛生課長	福祉事務所長	教育課長	教育委員会 庶務課長
------	------	------	------	------	--------	--------	------	------	--------	--------	--------	------	---------------

山口 実	長谷川 広治	羽山 房雄	高木 哲三	多田 俊一	小沢 正治	伊藤 幸太郎	新井 豊助	池田 春雄	吉田 耕一	池田 亮山	鶴澤 貫寛	押本 禧逸	干場 伊右門
------	--------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------

同 学校教育課長

山根 春大

同 社会教育課長

源間 利一

消防本部次長

石渡 東

警察管理委員長  
書記長

大嶋 重義

監査委員事務長

館石 勘治

農業委員会  
事務局長

山口 太一

診療所事務長

平柳 徳蔵

一本議会、事務局長、局長補佐、書記

書記

事務局長

高梨 青一

事務局長補佐

太田 博雄

書記

安藤 恭一

同

錦織 睦子

出席議員

三十三名

欠席議員

一名

午前十時八分 開議

議長(田中祿郎君) 本日出席議員数 三十一名

こゝより第四回市議会定例会を開会いたします。

本定例会の議案審査のため、地方自治法第百二十五条の  
規定による出席要求に対し、本間市長、小出助役、宛戸  
収入役、池田課長、新井耕課長、伊藤課長、羽山課長、  
高木課長、多田課長、鶴沢所長、谷貝課長、小倉課長、  
山口課長、長谷川課長、吉田課長、池田課長、大嶋書記  
長、館石局長、山口局長、平柳事務長、石渡次長、  
押本教育長、千場課長、山根課長、原間課長、以上の  
者が出席する旨、報告がありました。

御報告申し上げます。

監査委員より送付ありました十月、十一月実施の例  
月検査の結果が報告されております。それでお手  
元に配付し印刷により御了承願います。

議案を配付いたしました。

配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

会議録署名員が決定を行ないます。

本定例会が会議録署名員に——番議員 石井正君  
二七番議員 嶋田繁君 以上両君を指名いたします。  
二八に御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって決定いた  
しました。

会期が決定を行ないます。

本定例会が会期につき、議案運営協議会が意見は本日

から十二月十七日まで五日間ということであります。

おはかりいたします。会期を本日より十二月十七日まで五日間と定めます。ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって会期は五日間と決定いたしました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

こゝより市長の説明を求めます。

(市長登壇) (拍手)

市長(本間謙君) 開会にあたりましてごあいさつ並びに議案の概要につきまして御説明申し上げたいと存じます。

本日三に十二月定例市議会を招集いたしました次第でございますが、議員の皆様方には年末、非常に御多忙と  
ころ御参集いただきましてまことに恐縮に存ずる次第



でございます。

御承知のとおり十二月十日任期満了による市長選挙に  
私が再度立候補いたしますところ有権者各位より絶大に  
る御支援によりまして館山市始まって以来無投票によ  
り当選することができましたことはまことに深く感謝にたえな  
いところでございます。私も強くその責任を痛感し、心を  
新たにいたしまして私心を離れ市民に奉仕するという  
ことを私に心構えといたしまして明かるく豊かた大館山市  
建設に全力を傾注いたします覚悟でございます。

今後ともいっそう議員の皆さま方より絶大なる御支援をお  
願ひする次第でございます。(拍手)

さて本日上程いたします付議事件は認定関係で昭和  
四十年年度館山市一般会計ほか七特別会計に及ぶ歳入  
歳出決算の認定でございますが、こゝらは地方自治法



の規定に基きまして、議會の認定に付するものであります。  
次に条例關係の歳入といひまして、館山市市税条例の  
一部を改正する条例の制定でありますが、これは地方  
税法の一部を改正する法律により、地方税法の一部が改正  
され、退取手当等にかかる県・市・民税の所得割の分離  
課税に關する部分について、地方税法の施行令の一部  
を改正する政令、施行令を改正する省令が十月二十日  
それぞゝ交付され、昭和四十二年一月一日から施行すること  
なるわけで、現行法においては、所得の発生から翌年におい  
て課税するたてまえとなつてゐるために、退取所得に対する  
所得割については、相當の負担感を与える結果となつてゐる  
こと等を考慮して、退取所得に対する所得割が退  
取手当等の支払われる際に、矯正することとし、課税  
の合理化をはかうとするものであります。

次に青年館の設置及び管理に関する条例の一部改正でありますが、これは南長須賀所の宮の青年館が完成したことに伴うものであります。

次に部課設置条例の一部改正でありますが、これは取扱う業務管理、人事管理の適正をはかるために秘書課から分離して新たに人事課を設置しようというものであります。

その他十二月に支給する期末手当の特例に関する条例の制定でありますが、これは条例の制定及び改正につきましても、関係法令等に準拠して行なおうとするものであります。

次に予算関係議案といつてまいります。一般会計ほか特別会計の補正をお願いする次第でございますが、まず一般会計において補正いたしますのは、総務

費関係では表彰条例に基く報償費として三十七万円。  
電話自動化に伴う経費として二十万。民生費関係で  
老人保護処置費として百八十三万五千円。児童特別措  
置として二百八十五万八千円。衛生費関係では大葬場入  
道路工事費として六十万。トーンあい焼却炉新工事費  
として七十三万八千円。農林水産業費で農協合併補  
助として二百六十七万四千円。

教育費関係で県体育大会参加補助費として三十  
万円。那古小學校ほか電気配線工事費として三十三  
万五千円等で補正総額で千六百四十五万二千円であ  
ります。二、三の財源といいたまいて、国庫支出金四百  
六十万五千円、県支出金九十一万八千円、分担金七十万  
八千円、その他一般財源をもって充当しようというもので  
ございます。その他特別会計といいたまいて、国民健

康保険で三百九十二万八千円と育場で七十一万円の  
補正をお願いしようというものでございます。

以上議案につきまして、極めて簡単に申し上げますが、  
各議案につきまして、上程の都度、関係課長をして、  
御説明申し上げますので、慎重御審議の上御賛同  
をまわりますようお願いする次第でございます。

以上（拍手）

議長（田中祿郎君）以上で市長の説明を終ります。

日程第一認定第一号乃至第八号を一括して議題といた  
します。

（書記朗読）

認定第一号 昭和四十年年度館山市一般会計歳入歳出決算の

認定について

認定第二号 昭和四十年年度館山市公益質屋特別会計歳入歳

決算の認定について

認定第三号

昭和四十年年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第四号

昭和四十年年度館山市と畜場特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第五号

昭和四十年年度館山市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第六号

昭和四十年年度館山市休養施設特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第七号

昭和四十年年度館山市館山キースポーステル特別会計歳入歳出決算の認定について

認定第八号

昭和四十年年度館山市上水道事業特別会計歳入歳出決算の認定について

議長（田中祿郎君）説明を求めます。

(市長 登壇)

・市長(本間 譲君)決算認定について御説明を申し上げます。  
 昭和四十年年度館山市一般会計ほか七特別会計にわたる歳入歳出決算の認定につきまして御審議をわすらうわけを  
 わけてございしますが、本決算の認定につきましては、地  
 方自治法が定めるところによりまして、監査委員の意見  
 を付して議会が認定に付するわけでございます。  
 かえりみますると、昭和四十年年度は前年度同様物価高騰  
 及び財政格差の著しい中で、財政の健全性を保ち、  
 特に住民負担の軽減に意を用いまして、行政運営の  
 適正化と事務処理の近代化を促進し、行政需要の  
 緊急性にかんがみ、農業経営の近代化、ゴミ焼却炉  
 の建設、水道事業の推進、市道、橋梁の整備と市  
 民の福祉増進のために合理的に財源の確保に努め



地方自治の本旨を全うすべく最小の経費で最大の  
効果を上げるように努めて参りました。そうして、ニ  
結果一般会計で五千百五十三万九千円。国保関係で  
三百八十五万二千円。と畜場会計で四十九万三千円。簡  
易水道会計で七万一千円。休養施設会計で三百  
三十五千円。ノースホテル会計で四十七万七千円。簡易水  
道会計で八十八万二千円。の繰り越し金を見、決算  
をとげることができました。

主要な施策につきましては、歳入歳出決算、書事項別  
明細書、実質収支表により、御了承願いたいと思いま  
す。なお、慎重御審議を下さるよう切にお願ひ申し  
上げる次第でございます。

議長（田中祿郎君）以上で説明を終ります。  
暫時休憩いたします。

午後十時三十分 休憩

午後十時四十五分 再開

議長(田中祿郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。  
こゝ際おはかりいたします。

認定第一号乃至第八号の審議は本日はこゝにて止め、後  
日審議を継続いたしたいと思います。こゝに御異議  
ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よつて認定  
第一号から第八号の内容審議は以上となり決定い  
たまいな。

日程第二 議案第六十三号を上程いたします。



(書記朗読)

議案第六十三号 釧路市市税条例の一部を改正する

条例の制定について

調査課長(高木哲三君) 釧路市市税条例の一部を改正する  
条例について御説明申し上げます。

第三十四条でございますが、これは個人が市民税の非課税の  
範囲を規定したものでございます。

退取分離課税につきましてでは生計保護者がもらう退取  
金については課税しないということでございます。

障害者、未成年者、老年者、障害者、寡婦控除、これは二十四  
万円を超越える場合には控除の適用はございまい  
た。この分離課税につきまして、この額が幾らあっても  
分離してありますので、普通の所得には加算いた  
しませんで、ほかの所得が二十四万円以内の人に対しては、

市民税の非課税、適用を受けているわけでございます。ですから、今までですと、退職した年には健康保険税については、大体退職した次の年には相当額取りうることになっておりまして、今度は分離課税でございます。で、次の年には、普通、所得だけで退職、分離課税、税金につきましては、別個に扱います。保険税、算定基礎には用いないというところでございます。三十四条、三十六条、二は、様式、変更でございます。

五十三条、二、二は、退職所得に対する所得割について、は、退職した年、一月一日現在における住所所在の市町村が源泉課税を行ない、退職所得、課税の特例について規定したものでございます。

五十三条、三、分離課税にかかる所得割、課税標準

所得税法三十条二項による計算でございます。

退取金から勤続年数に五万円を掛けた額を引き  
まして、その二分之一が分離課税の課税標準になる  
わけでございます。

五十三条の四、二は所得割の税率でございます。

二は市民税でございます。市民税は、百五十万以下  
の金額は百分の二、百六十万を越える金額は百分  
の四となすおりますので、合計額を取らるわけで  
ございます。

五十三条の五、分離課税にかかる所得割の徴収、二  
は特別徴収の方法によって徴収することでございます。  
ます。

五十三条の六、退取手当等の支払いをするものと、条例  
で定めるところにより、特別徴収義務者を指定

して二に徴収せよということでございます。

五十三条の七、特別徴収額の納入の義務を規定してございまして、退取の翌月の十日までに納入申告書を提出し税金を納入するということでございます。

五十三条の八、特別徴収税額一につきまゝでは、退取金が一カ所しかないときの場合でございまして、その場合は合計額に税率を掛けまして、その十分の一を引いた額を支払うということでございます。

二は二カ所以上の場合でございまして、二カ所以上からもうる場合、その合計額に税率を掛けまして、はじめ納めた税額を引いて納入するということでございます。

五十三条の九、二は退取所得申告でございまして、退取所得手当等、支払いを受ける者に対する

退取所得申告義務を規定したものでございます。  
五十三条の九の二は退取所得申告書が提出の  
際に退取手当を支払うとする者、特別徴収をする  
者に提出した場合に市長に提出したとみなすという  
ことでございます。

五十三条の十、退取所得申告書の不提出に関する  
罰則を規定したものでございます。

五十三条の十一、分離課税に関して所得割の不足金  
額を納入でござります。

五十三条の十二、分離課税にかかる普通徴収、これは正  
当に計算した税額が特別徴収より大、または特別徴  
収されるべき税額を越える場合にのみ行なわれる事  
でござります。二にその場合に延滞金を徴収する  
というものでございます。

附則ウニ十二でござりますが、当分の間、税額から十分の一を控除した額を納入するというわけでございます。今までは翌年に支払う関係で一年分の利子といひまゝ一割を控除して納めていたわけでございす。

二十三でござりますが、当分の間、特別徴収税額は個別に計算し、税額にかえて別表によるものを規定したわけでございますが、十分の一を引いた額でございす。

二十四、二は分離課税にかかる所得割の普通徴収の適用については、当分の間、その一部を読みかえるという読みかえ規定でございす。以上で説明を終わります。

二五番（救済四七郎君） 退取手当、退取所得という問題は、さうして勤めて停年退取或いは勧告退取等によって相当のその会社なり、の功労者として貢献した

者が定める。定めざるを得ないのだというところで支給すると  
いう性質、関係からお聞きしたいのであります。が、そ  
ういう性質のものである以上、私開き間違いであった  
かもしれません。が、百五十万円を越える場合には百分  
九七、累税の場合には百分の二・五、市税の方が多  
いという、二は間違いであったかもしれませんが、課税  
のパーセンテージの問題になるうてはないかと思ひますが  
累税より多く、根拠とお伺ひたい。

第二に第五十三条の方で分離課税になりますと特  
別徴収義務者というが、市の場合に市長、会社、場  
合に会社を代表する者が義務者になる。二う解釈  
するのであります。が、その場合に五十三条、七で雇  
主が退取手当から税金を引だけ外いてしまふのだ。  
そうして渡すのだ。二ういうことはわかる。わかるけれども



退取金を受けける人は天引きされる前に退取所得申告書を提出しない場合過料を課する。これは、実際問題として支給する者が会社代表者、市長がすゝばできるわけですが、金をもらわない前に申告書を提出しない場合に五十三条の十に該当する正当の理由なくして提出しない場合に三万以下過料に課する。これでは功労者に対してちよときへ過ぎるような感にがなくてもない。そこで正当の理由なくして提出しない場合という解釈。この点を御説明願いたいと思います。以上。

調査課長(高木哲三君) 税率につきましては地方税法にまづきめられておりまして、それより税率でございす。その税率でやつていくことになっております。

それより第三点、特別徴収義務者でございすか、



退取者が退取所得申告書を提出するということになり  
おりますが、不提出の場合には過料ということになり  
ますが、これは脱税を防止するために一応こういうことを  
うたつておきまして、市町村ではその徴収するのに退取  
金については調査が困難で五十三条の十の二項に過料  
の額は市長が定めるといふことになっておりますので、三  
万円は最高でこれを取るか取らないかは市長が定め  
るといふことになっております。

二五番(藤生田七郎君)徴収義務者というものは会社の場合  
は会社代表者、市町村の場合は市町村長、そういう  
わけでございすね。その場合に会社なり或いは市町  
村長なりが、退取金からこの金額を差し引いてしま  
うわけですわ。ところが、もう本人はもう本人の場合に申  
告をなさなければならぬ。こういうわけですわ。

ですから同時に申告すればさうつかえないわけですが、その点が申告漏れやあった場合には先ほどいったように申告加算税とか重加算税を取らなくては退取金という性質からいって誤りが起るやすいと思うのであります。すが、その点いかがでございますか。

調査課長(高木松三君) その点につきましては各事業所に退取所得にかかる住民税や特別徴収にかかると手引きというのを送って誤まりやないようにしていくたいと思います。

二五番(藤生田七郎君) 最後伺いますがいわゆる五十三条で本人がもう一人が退取所得申告書を正當の理由なくというのだから知らないとか、忘れたとか、二五の場合には適用しない。知っておつても知らないという場合に最高限度の過料である。

ニう解釈してよろしうございますね。

・調査課長(高木哲三君) 正當の理由なくして提出しなかつた  
非番の場合に三万円以下過料を課するということ  
でございます。

・三五番(萩生田七郎君) 正當の理由というものは本当に脱税を  
目的にして申告をしなかつた者に対してのみ発するもので  
あつて、忘れたとか知らなかつたとかいう場合には、課税の  
対象にはならないのだ。脱税を目的としな者だけに適用  
する。というふうに解釈していいかということをお願いしてある。  
・調査課長(高木哲三君) ニう項は、脱税行為を防止するため  
の条項でございますので、その過料に対しても、次に「前  
項の過料」額は市長が定める」ということになつて  
おりますので、情状によつて相當の幅があると思ひます  
ので、ニうでいいんではないかと思つております。

ニ五番(藤生田七郎君)要するに過料というものは脱税を目的といたうだというものが確認された場合にのみ課するものであつて、その他の場合には、課さないのだ。こゝにう解説していかうか聞いておる。

調査課長(高木哲三君)そういう解釈でよろしいと思ひます。

六番(秋山六三郎君)事業所におきまして課税対象になる金額を差引いて本人は差引いたものを渡さいたところか、たまたま、これは退取金ではございませうけれども今までに例えば事業所で差引いておいて納付しなけいばならいような性質のもの、を期限通り納付しなけいという事例がこゝにう退取金の場合でも起るかもしれないということが考えらるわけでございます。

そういう場合にその責任、いわゆる徴収する方の立場に  
なりますとまだ入ってないから滞納である。納税を怠っ  
ておると見られるわけですが、一か一本人はす  
でに事業所に差し引かれてしまつておる。三ついう場合が  
あるかもしれない。そういう場合にはどんな処置を取ら  
るのか。どううう解釈をされるのか。二点について御答  
を願ひたいと思ひます。

調査課長(高木哲三君) その場合は結局市役所といつた  
まゝで調査いたしまして五十三条の十の分離課税にかか  
る所得割の普通徴収ということとで不足分については  
事業所でなくて本人から普通徴収でいただくという  
ことになります。

六番(秋山六三郎君) 私が伺ひましたのは要するに事業所  
においてすでにその税額に該当する金額と差し引い

て本人には差し引いたものを渡してある。ところがその事業所が市の方で納付してない。そういう場合には、その責任はどこに持つていくかということでございます。調査課長(高木哲三君)　そういうことがあるかもしれません。そのため、退取所得者に退取所得申告書を市長宛に出すようになります。その場合は、それだけ事業所に滞納ということになります。特別徴収義務者がそれだけ滞納ということになります。

大番(秋山六三郎君)　ただ今の御答弁によりますと、そういう場合に納税を怠っている者は、特別徴収義務者である。こういうことであります。その場合にそれでは、もしそれが滞納である場合に本人ならば、これで参りますと、過料というものがあられるわけでありまして、

その場合に特別徴収義務者に対しては、どういう処置

を取らざるか、もう一点お伺いしたい。

調査課長(高木哲三君) その場合は五十三条の十一の分離課税にかかると所得割の不足金額等の納入、ニよは調査い  
たしまして、その結果過不足のある場合の規定でござい  
まして、ニよは適用することになっております。

六番(秋山三郎君) 私が申しますのは特別徴収義務者が要す  
るに差引いておきながら市に対して納付を怠っております  
滞納しておる。こういう場合に本人ならばもちろんニよ  
規定から参りますと過料の対象になります。 こういう  
ことになるわけですが、一かー本人はすでに差引かれて  
おるのだからもう責任がないわけではございます。

ところが特別徴収義務者が納付を怠っていた場合にそ  
れに対して何ら罰則はないのか。

調査課長(高木哲三君) その場合罰則がございます。



申告う加算金が徴収されるだけでなく罰則の規定が  
ございます。

・二五番(荻生田七郎君)簡単に御答弁願いたいと思います。  
退取所得申告書ですが「支払うを受けるときまで」という  
んですから支払うをする前とということの意味する。

これをよく考えないと金をもらうときに税金を差し引かれ  
ておる。一か一申告書を出さなかつたために受ける前にい  
ろいろのものが課せられるというわけになるんでしよう。

その点十分、この規定を徹底を期さないと本人はよけい  
税金を払わなければならぬ。退取金という性質からは  
つまりいていただきたい。

・調査課長(高木三君)退取申告書は特別徴収義務者  
を経由して市長に出すことになっておりますので、その  
点は間違いないと思います。



二四番(島野茂樹郎君)五十三条の十二 普通徴収ということ  
なんです。どういう場合に普通徴収になるのかという  
ことが一つ。それから税率の適用の方法ですが、順  
次適用していくのだということは十五万円以下は金額  
については百分の二、十五万から四十万までの間は、百分  
の三、三というふうにして、その額によって順次計算して  
いて、例えば、百万円もらった場合、十五万以下は百分  
の二、十五万から四十万までは、百分の三、それから四十  
万から七十万までは、百分の四、七十万から百万までは、百分  
の五、三というふうにして計算して、その合計額が税額だとい  
うふうな理解をしてよろしいか。

調査課長(高木哲三君)五十三条の十二でございしますが、退  
取手当等の支払いを受けるときまでに退取所得申告  
書を提出する。またはその年中に二十二条の退取手当

を受ける場合におきまして、正當に計算した税額が特別徴収されまたは、特別徴収されるべき税額を越える部分についてのみ、普通徴収が行なわれるわけでございます。

結局正當に計算したより少く納められた場合には、不足分につきましては、不足分だけを普通徴収にまわすというところでございます。

それから税率でございますが、これは百万円といつて、御質問のとおりでございます。十五万円以下の金額について百分の二、十五万から四十万までの額に対して百分の三、三というふうな計算して、その合計が合計というようになります。

議長（田中稔郎君）議案第六十三号は討論省略原案通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よって議案第六十三号は原案通り決定いたします。  
午前、会議はこゝにて休憩いたします。

午前十一時三十七分 休憩

午後一時二分 再開

議長(田中祿郎君) 午後、出席議員数二十九名。

休憩前に引き続き会議を開きます。

日程第三、議案第六十四号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第六十四号 館山市青年館の設置及び管理に  
関する条例の一部を改正する条例

の制定について

福祉事務所長(鵜沢寛寛君)議案第六十四号につきま  
して御説明申上げます。

南長須賀青年館は工事費百四十八万円で富士土  
建が請負いまして九月五日に竣工いたしまして。  
所々宮内省青年館は百七十万円で石井工務店が請負  
まして十月一日に竣工いたしまして。この二館を  
条例の別表に加えようとするものでございます。  
以上でございます。

議長(田中祿郎君)議案第六十四号は討論省略原案  
通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よって議案第  
六十四号は原案通り決定いたします。

日程第四議案第六十五号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第六十五号

館山市部課設置条例の一部を改正す

る条例の制定について

・市長(本間 讓君) 議案第六十五号につきまして御説明を  
申し上げたいと思います。

私が申し上げるまでもないことですが、市役所と  
いうものは、市民のため、市役所であるわけでござい  
まして、従いまして、これに携さるる職員は、市民から信  
頼される職員でなければならぬわけでございます。

これにつきまして、私は特に考えまして、市役所職員が  
養成、或いは心構えということが、非常に大事ではない  
かと思っております。わけでございます。

心構えにつきましては現在におきましても時間、励行

とか新切とか、和合とか、さらに礼儀を重んずる。

ミういふ四つことを心に構えとして仕事に当るようによ  
請へておるわけでございますが、二つうことをよく浸透  
して市民から親しまれる市役所、市民から信頼され  
る取組になやもらいたいという一ことが一つござい  
ます。もう一つは一生懸命やる人についてはおく  
ろ下げて見てやうて一生懸命やうても目がな  
いというふうなやりかたで、  
ないことを考えなければならぬと思つております。

またそうでない人については十分な反省を求める。三ついうことがあつたわけですが、そのうち、栄進につきましても、単に長い間勤めておるからというばかりでなく、よくやる人に対しては、若い人でも、或いは婦人、若人でも、二つに榮進の道を開くというふうなことをよく検討する必要がある。私はあるのではないかと、思ひます。そういう

二ともございますし、また市役所というものが一つ家族  
と考えらるるわけでございますから、みんな心配ごとか  
或いはうしろのこと、悲しいことについても相談相手にな  
りまして、暖かい気持ちで取員に対処したい。  
こういうことがわらうので人事課を設置する。こういう  
二とに考えておるわけでございます。何といつても、やはり  
取員に構えが非常に大事であると考えまして、今申し  
上げました線にそつてなるほど最近では市、取員も前より  
ずつとよくなったという姿に持つていきたいために人事課と  
いうことが当を得ておるかどうか分かりませんが、そういう  
内容のもとに課を設置して取員に対して暖かい気持ち  
で接しようという意味で人事課を設置することにお  
願ひするわけでございますから、どうか御審議、  
上御決定をいただきます。



一、番(辻田実君)ただ今、説明で一人人事課設置の趣旨  
 というものはわかりまゝだが、三つ四つ質問いたらないと  
 思います。

まずただいま、説明でございしますと従来から現在ま  
 で、市役所におきます、取員、勤務実態、そういうも  
 のが不十分だ、という前提に立って人事課を設置する  
 ことによつて、今、以上、~~市~~にようになるのではないか、という前提  
 提の上に立たれておるわけでございしますけれども、そう  
 いうことなうか、どうか。

従つて、そういうことになる、とすると、今まで行なつてきた  
 人事管理というものは、行政機構的に若干の欠陥  
 がある、ということを認めるか、というところが第一点、さ  
 ないと、人事課の設置というものは、事務改善等に  
 伴つて機構の近代化に伴つて、どうしても人事課を

設置していかねければならぬのか。第三点としてお伺いします。第三点は、それらとからんで、E.L.O.の問題等からみ合おせまして、先般、団体交渉について審議して特に公平委員等、位置づけ、そういうものが審議されたわけでございます。そういう交渉、そういう交渉からいっても、人事課が必要になつてきたのか。この点について第三点としてお伺いしたいわけでございます。以上。

市長(本間 譲吉) 私はそういうむずかしいことでなく、法律のことでなくとにかく市民から親しまれる市役所になるためによろう。今までやつたことを悪いとは申しません。例えば礼儀の問題にしても、私にすら言葉まかけないでいる人がいる。ほかの人に対してはまうて、そうではないかと思ひます。答さん方、よろうな人に対し

ては、相当ていねいにやると思います。一かーながら、おにいさん、おばあさんに対しては、親切にやる人もあるでしうけいども、そうでない人もある。そういう人たちに、対しても親切で、ぐんぐんでもういふということをして、うわけです。そうして、今までの状態でもありますが、一生懸命、それでも目がなつかい、いろいろなことを聞く、ですから、そういうものをよく振、下げて検討してよくやる人は、衆議院の道を講、もう、私は現実のもの、とらえて、法律でなく、とにかく、明かると、市民からみてもなるほど、良い気分でもうてくるな、という、能心、まよく、いふ、という、こと、で、ございます。

給与の問題、E、L、O、の問題等、でございますが、もうも、御審議願うことになっておりますが、私は、給与の問題、につきましても、年末手当、夏季手当、いつも

例えば衣はこをすいながら足を前にのばして応待する  
着もある。いろいろある。ニういうことを だんだんお互  
いに氣をつけてやる。ニういうことでも人事課を設  
置しようというのですね。心構えをいっそうよくして  
ニう。ニういうことでござります。

官山長公



って一生懸命やっている人とそうでない人。吾心欲を持ち  
あっている人とあてない人を区別することがいいかもしいま  
せんが、そのことによつて事務上の混乱を生ずるという  
ことになるとおむろく人事課設置が現在うような根  
拠の中では笑ひがでてくるのではないかと考える。  
この点に對しまして、取員組合等と多少なりとも話し合  
ひ協議、そういうものをさへてきたか、お伺ひしたいわけで  
ございます。

市長(本間謙君)いろいろごもつともな御意見でござい  
ますけれども、そういう風に私も努めて彈正して参り  
たいと思ひます。それからこの設置につきまゝして、取員組  
合とは話し合ひません。だれとも話しません。

私はそういう考え方でよろうという意欲にもえて皆  
さんに協賛を得て皆さんが御注意を守りながら実



現れない。二ういうふうに考えております。

一、番(辻田実君)私を申し上げたい面につきまゝ市長がたい決意というものがありますから、その点についてはある程度真意はわかりまゝで、了解いたらないと思ひますが、私はいろいろおつゝたように取員組合とう話し合ひもできてゐない中で、機構の改善を推進するにつきまゝでは、逆結果が出るのではないかと思ひます。本なければ幸いですけれども、二ういうまうな事態になりまゝな場合にはどうしように処置されるか。

。市長(本間譲君)大勢の人ですから、辻田さんのようにお考えの方もおるかと思ひますけれども、やはり市長が打ちまゝ以上は協力をしてもらわなないと市役所の運営はできないわけですから、私もよく話して協力してもらつて、さうに指導してあなたもつゝたことをよく考えてもら



ますから、もう「こ」と「起」は「こ」に「起」を参りたいと思  
います。

。ニニ番（君塚喜三君）一々番議員の御質問でよくわかったよう  
な気がいたします。なお市長さん、御趣旨はよく  
わかりますが、やはり私使われてきておる身の上と一  
心配いたします。ものがただ今の御説明にあります。ま  
くやる人は引き上げていくのだとおっしゃるんですが、ところが  
よくやるか、やらないかを判断するものはお互い人間である  
そこには情実というものが入りやすい。結果的にかげみなど  
のある人間、おつか使いう人間を育てる結果になりま  
す。従って「こ」と「起」は科学的登用制度を必要  
とするのではないかと。人事課をお持ちになることは結構  
だけれども、そういうものなくしてただ情実的なことだけ  
で登用ということになると、今「こ」と「起」は「こ」に「起」

そのことを心配する。その点について市長さん再度も  
答えていただきたい。

・市長（本間 譲 君）情実になりやすいうではないかという  
お話ですが、そういうことも考えらる面がございます  
ーかし、そういう考え方でなくやはり正しい判断のもと  
にやらなければ、人事問題ですから、先ほど申し上げ  
まいは、私は、私、基本的な考え方ですつかり、そういう  
ふうにあるという面も、いかな点もございまいし。

情実とかおべつかというものを採用するということは、  
私としては、やはりない考えでございます。

人事につきましては、今後私が目を通して、もっと適正に  
能率的にみんなが気分よく働ける人事行政を行  
ないたいというが、私、基本的考え方でございます。

人によれば、いろいろ理屈もつけらるでしよう。ーかし、



ったものを加味するというならいいんですが、そういう  
ことなくしてこれはよくやるのではないかと上げてやるとい  
うことではおもわくもない結果が出てくるのではないかと  
いうことを心配しておる。その点いかがですか。

そういつたような科学的な登用制度というものをどう  
するのだというところに市長さんお考えがいきませんでし  
ょうか。

市長(本間 義君) 今々お話の中で私も考えておる。  
試験制度でしよう。それも必要です。

今、ただちにこうだとはいかなない面があります。

これはあなた私が私を信用しないといくらいつても仕方がな  
い。信用していただければいいわけですが、私も少なくとも  
も申し上げまいかな、嫌でやるといふことではあるわ  
けですから、御了承願いたいと思います。

それから二ヶ月前、議会で御質問がございました。藤原  
ウー、尿処理場、……

議長（田中祿郎君）議事外ですから。

二五番（萩生田七郎君）結論から申しますと、この案に賛成で  
あります。ただ縣に念するの、今、秘書課というものが  
存在。秘書課というものが人事課の役目を果たしてき  
たと想像されます。そうしますと、秘書課の人員が若干  
減るといふことが想像される。ただ人事課を作ったため  
にさらに人員を増して、いわゆる屋上屋を重ねることがあ  
ってはいけないと私は思いますが、同僚議員から発言があ  
った如くやはり組合等の話し合いというものの過程にお  
いて必要ではないか。私も縣に念するの、秘書課の縮小  
が必然的に伴うのではないかと思うんですが、その点にか  
がでございましょうが。

市長(本間護君)結局秘書課の方で今まで人事をやつて  
おりまゝにやけりとも、それだけ、人数がそつちに回わると  
いうことで考えてゐたが、結構だと思ひます。そのため  
に人をふやすということは考えておりません。

・三五番(荻生田七郎君)そうしますと、課長さんがひとりゐると  
いう程度のもので考えてよろしいですか。

・市長(本間護君)そうでございますわ。

・議長(田中祿郎君)議案第六十五号は討論省略原案  
通り可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(田中祿郎君)異議なしと認めます。よつて議案  
第六十五号は原案通り決定いたします。  
議案第六十六号を上程いたします。

(書記朗読)



議案第六十六号

昭和四十一年十二月に支給する期末手当

の特例に関する条例の制定について

秘書課長(小倉澄男君) 議案第六十六号につきまゝて御説明  
申し上げます。

本条例は館山市取員に給与条例に規定してございまして、  
十二月の規束手当にさうに百分の二十を追加支給すると  
いう趣旨のために設けまゝの特例でございまして、

これは先般から取員組合等と種々協議して参りまゝに  
結果、今年は昨年と同率であります。百分の二百七  
十を支給することに決定いたしまして、本特例を提案  
した次第でございまして、

第一条に目的、範囲、第二条におきまして一般取員の期末  
手当の特例を設けまして、第三条におきまして、議会  
の議員の期末手当、第四条におきまして、市長、助役



収入役、教育長、各条例適用をうたつたのでございます。  
以上でございます。

議長(田中祿郎君) 議案第六十六号は討論省略原案通り  
可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議なしと認めます。よつて議案第六  
十六号は原案通り可決さすまいか。

日程第六議案第六十七号乃至議案第六十九号を一括し  
て議題といたします。

この際申上げます。

ただ今議題となりまゝの議案第六十七号、六十八号、六  
十九号の各会計補正案は本日は、二つが内容説明  
のみといたしたいと思います。

二つに御異議ありませんか。

(「異議ナシ」と呼ぶ者あり)

議長(田中祿郎君) 異議ナシと認めます。よって決定  
いたしまし。

(書記朗読)

議案第六十七号 昭和四十一年度館山市一般会計補正予算

議案第六十八号 昭和四十一年度館山市国民健康保険特別会計

補正予算

議案第六十九号 昭和四十一年度館山市と畜場特別会計補正予算

議長(田中祿郎君) 暫時休憩いたします。

午後一時四十分 休憩

午後二時 十分 再開

議長(田中祿郎君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

財政課長(長谷川広治君) 六十七号議案の一般会計の補正  
予算案について申し上げます。

今回第四回の補正でございます。第一条にあります  
とおり、千六百四十五万二千円を、それぞれ歳入歳出に追  
加いたします。補正後の総予算額を八億六千六百  
七十六万五千円といたします。なお、内容  
につきましては、一ページの明細書により御説明を  
申し上げます。

千六百四十五万二千円の内容を申し上げます。収入面  
におきまして、今回追加をいたします額が千六百四十六万二  
千円、更正を一万円いたします。千六百四十五万二千  
円の収入というところに相なります。

歳出面におきまして、純追加額が千六百四十六万九千円、  
更正いたしまして、百一十七万七千円でございます。差

引き千六百四十五万二千円に相なっております。

ニのうち特定財源が六百二十三万一千円、千二千一万一千円が一般財源という二とに相なります。その比率は三七％でございます。

一ページ、明細書から申し上げます。

歳出におきまして議会費に三百三十九万円追加をいたしてあります。これは予算編成時とその後、条例改正に伴いまして増額いたすべき金額をそれぞれ報酬、取手等に分けまして計上いたしまして、実際費に十五万円計上いたしております。以上が議会費でございます。

財政課所管について申し上げます。一ページ財産管理費四十八万一千円追加、ニのうち五万円は電話の自動化に伴いまして、何本かある電話を夜間一本につないでい

ただ、装置をいたしますために交渉したわけですが、  
 いまですが、その結果、債券を五万円購入するといふこ  
 とにすりまわつて、それを追加したすわけでもあります。  
 積み立て金、四十三万一千円。これは財政調整積み立て金  
 を年度途中で取りくずす予定でございまして、取  
 りくずすといひませんので、そのために利子が四十三万千  
 円、収入されますので、それを収入いたしまして、歳出面で  
 四十三万一千円を支払うていくという関係でございます。  
 一七パーセント住宅管理費で十七万一千円計上してあります。  
 これは北条海岸及びその他、市営住宅が最近いたみか  
 ひどくなつておりまして、雨漏り等は早急に実施しなけれ  
 ばいけないので、十七万一千円を計上して修理を行なつて  
 いきます。かように考えて計上をいたしてあります。

秘書課長（小倉登男君）続きます。御説明申し上げます。

先ほど御審議いただきまして期末手当、関係につきま  
ては、まだ三月の分がございますので、追加補正は議会費  
並びに衛生費を除きましては、まだ、残額がございますので  
補正いたしません。

給与ベース改定に際しまして、一錯にやりたいという事で三  
目を除きましては、いたっておりません。

総務費八節報償費、釧路市表彰条例によります、銀杯  
本年度は市長選挙等によりまして、延期になっており  
ます。が、明年適当な日に実施したいという事で、  
二百個、一個千八百五十円、三十七万円計上いた次第で  
ございます。

十九節十五万円、これは先般の十一日ももちまして、ダ  
イヤル式の電話が開通いたしたわけでございますが、地  
元として、市長が発起人となります。商工会議所並びに



商店連合会におきまして、ダイヤル開通祝賀協賛会を組織してお祝いしたいとあがたいということ、市が十五万支出したいとしまして、会議所、商店連合会で五十万円、二十万円をもちまして、いろいろな装飾等を行なうための負担金でございます。以上でございます。

・調査課長(高木哲三君)一ページ徴税費、税務総務費について御説明申し上げます。

賃金九万四千円、追加二は昭和四十二年が固定資産の基準年度になっておりますので、家屋の評価算定に必要な臨時取扱い賃金をお願いいたします次第でございます。

・財源といいたしまして報酬で五万五千円、旅費で三万九千円、更正いたしまして財源といた次第でございます。

・市民課長(羽山房雄君)戸籍住民登録におきまして、六万



五千円の補正。これは今後三月いっぱいまで不足を見込  
みまゐた。旅費におきまゐりて五千円。通信運搬費郵  
便料六万円計上いたしまゐる。

選挙書記長(大嶋重義君)四項選挙費について御説明  
申し上げます。

選挙管理委員会費で十三万五千円。市長選挙費に  
おきまゐりて余剰分がふまゐりて六十五万九千円でござい  
ます。差し引き五十二万三千円の減額補正を今回お願いす  
る次第でございします。

追加でございしますが、選挙管理委員会費で十三万  
六千円でございします。昨年九月三十日に永久選挙人  
名簿が実施されたわけにございしますが、現在まで簿冊  
式の名簿でございましてなるべく早く一人一枚のカード  
化するまいかという法律になっております。で来年の

三月より登録期までにカード化を実施したいというこ  
で、これを計上したわけでございます。貸金三万大千

円はカード化のため臨時取員の賃金でございます。  
備品購入費十万円、これはカードを保管するキャビネ  
ット、一台五万円、それを二台購入したいというわけ  
でございます。なお、カード化でございますが、本市に  
おきましてはエスターが入っておりますので、エスター  
を用いて行なう方針でございます。

完了は三月より定時登録までに終わらせたいという  
予定でおります。

四目より市長選挙費でございますが、御承知のように  
投票は行なわれなかつたのでございまして、この経費  
は準備事務がおもなものでございます。この経費が  
十二万二千円でございまして、

なお、この余剩財源の一部は、一目、選挙管理委員会費の追加に更正財源として使用しようというものでございます。

庶務課長（山口実君）中小企業総合基本調査について御説明申し上げます。十月三十一日現在でもって館山市の十一事業所を対象にいたしまして調査員二名をお願いいたしまして総合調査を実施したわけでございます。この結果は、国におきまして中小企業に対する対策の資料となるわけでございます。福祉事務所長（鵜沢貞寛君）三款民生費について申し上げます。

一目社会福祉総務費百八十三万五千円、追加、内訳は旅費におきまして三月まで二万円不足いたしますので追加いたしまして、十三万委託料三万円は母子福祉

推進員業務委託料でございますが、これは当初二万円計上してありますが、活動費として不足いたします。ここに計上いたします。

十九節負担金補助及び交付金で九万円。これは当市の生活保護世帯に対して一世帯三百円を歳末見舞金として送ろうというものでございます。

二十節扶助費、百六十九万五千円。身体障害者補装具の交付補助として十六件十二万一千円不足したので追加いたします。

精養軒里親委託費として一万円。現在のところ、該当者は一人。十二月から三月までで、老人措置費として百五十六万二千円は基準単価より増額による不足分でございます。

児童福祉業務費におきまして、十萬二千円、追加報酬

七万二千円、家庭児童相談員の報酬の増額でございます。  
従来月額一万二千円でございましたが、四月から一万五千  
円に増額いたしました。その不足分でございます。

十四節使用料及び賃借料で二万円、十二月三日に県  
の体育館で県主催で行なわれました第一回の青少年  
健全育成県民大会に関係者六十名参加いたしました  
ので、そのバスや借り上げ料でございます。

児童措置費で二百八十五万八千円、これも措置費の増額  
による不足分でございます。

児童福祉施設費におきまして、十一万五千円を追加で  
ございますが、十二節役務費で二万円、今度のダイヤ  
ル式になります。館野九重に新しく電話が架設  
されましたので、その電話料でございます。

工事請負費三万円、これは九重保育園の土手工



石積み工事でございますけれども、当初予算で二万五千円計上してあったわけですが、二万五千円で  
は足りず、見積りの結果、五万五千円という二とになり  
まゝたうで不足分を計上したわけでございます。

備品購入費六万五千円、純真保育園の放送器が古く  
なりまゝして使用に耐えませんか？で、この購入費、四万五千  
円、消火器、これは四園一個づつ四個分でございます。  
これは二万円、合計六万五千円、追加でございます。  
衛生施設課長（吉田耕一君）衛生費につきまゝ御説明  
申し上げます。

一目う保健衛生総務費におきまゝ十五節の工事  
請負費について六十万円をお願いしようというもので  
ございます。大葬場の慈恩院の門の入口から、  
大葬場内まで約百メートルでございますが、道路の

拡張改修をいたしまして整備いたしたい。

次う十九節の負担金補助及び交付金で十万円でございますが、これは三芳と館山の隣隔離病舎の患者の診療費の分担金でございます。当初予算におきまして十人程度見ておいたわけでございしますが、現在まで十八人の患者を収容したわけでございまして大体一人平均一万四、五千円の費用になるわけでございまして今回これだけ追加いたした次第でございます。次に清掃費でございますが、百五万八千円を願っております。十五節の工事情形負担につきまして七十三万八千円でございしますが、完成いたしましてトシかい処理場は今までの工事以外に分けたいまして整備いたしたいと考えて、門扉、場内、排水、整地、合わせまう七十三万八千円を願うというわけでございます。



十六節 原材料費でございますが、現在、東側にございます。河川敷に現在埋め立て捨場として使用してあるわけでございますが、その整備、割りぐり、砂利等を入れていきたい。このため、原材料費におきまして三十二万円をお願いしようというものでございます。

・高工観光課長（小沢正治君）第五款の労働費でございますが、労働諸費、十九節負担金補助及び交付金におきまして六万四千円追加でございますが、これは日雇いの労働者失対事業に従事する方たちでございますが、国の方でこういう方たちの不安定な状態を解消するため、定取運動を推進してあるわけでございますが、一定の取に定着する場合、就取仕度金として従前三万円、仕度金を貸し付けます。

一、そのうち三分の一を地元市町村が負担するとい  
う制度であつたわけですが、四十一年度にお  
きまして、館山公共取業安定所管内で館山市の住  
民で十一名予定されておりましたので、三万円の仕度  
金に對しまして一万円ずつ負担する予定であつた  
わけですが、今回は、今回四万円になりまして、人員が  
二名増、十三名になりましたので、その差額分でご  
ざいます。こゝが大万三千四百円ばかりでございますので  
六万四千円を追加をお願いいたします。  
それから、第七款、商工費の御説明を申し上げます。  
商工費におきまして、負担金補助及び交付金として  
二十五万円の追加をお願いするわけですが、こゝが、  
こゝは、市ならば、こゝ小売り組合におきまして、まゝと  
買って上げをいたしていただく方が、ちうサービスとい  
なう。

袋を作る事業を約三十二万円程度で実施する  
というところでございます。

半額より十五万円を補助しようというものでござい  
ます。もう一点は船形地区のうち製造組合が最近若干  
力不足になつてきておる傾向がございまして、これも  
館山市の特産品の奨励といひまゝて助成してや  
る必要があるという考え方から、今般一十万円を支  
出したいというものでございします。

農林水産課長(伊藤幸太郎君) 農林水産業費につきま  
て申上げたいと思ひます。

農業振興費といひまゝて二百八十万五千円を追加  
支出願ひするわけでございします。

内訳といひまゝては十九節、館山市農協合併  
補助金第一回交付金として二百五十万、合併

に伴います補助金の方針といはれまゝでは新しい組合が発足いたしまゝから施設設備の事業に対して約二割程度の基本線をもって助成して参りたいという基本的考え方でございます。

四十一年度の農協の新し事業といはれまゝで約三五百万円が目下進行中であるわけでございます。

庁舎と倉庫と野菜集荷所、この三つの事業が行なわれております。これに対して二割程度の額を助成して参りたいということと、今回予算等いろいろのツケの問題で第一回分として二百五十万円を追加したいわけでございます。

次の葉たばこ共同育床施設に対して六万円、これは館山市専売支局管内におきまして今回共同育床に対します助成金が参ったわけでございますが、安

房郡市を一括いたしまして四カ所が対象として補助金が出て参るわけでございます。

一かーながら、市内分につきましては一カ所分一か  
該当してありません。一かー共同育床が行なわれ  
ますには、どうしても三カ所、市内では行ないたいとい  
う強い要望でございますので、今回六万円を助成  
して、そして参りたいというところで追加いたしまして、

次の構造改善協議会が補助五万円、当初十万円の  
補助で協議会を運営して参ったわけでございま  
すが、第二次分が構造改善事業の調査検討会  
とか、現地の視察等でございますので、今回五万円を追  
加して、このうち調査・研究の運営費に充てて参  
りたいというところで五万円を願ひたいわけでございま  
す。次の安房地区野菜生産地出荷近代化の協議会負担金

二十は今回果におきまして館山市・三芳村・丸山町・干  
倉町ニ市町村を野菜生産出荷生産地として新  
たに指定さすまいとて市町村合同で協議会を  
作つて、この仕事に当たつて参つたういんではいか  
という考え方を持ちまして協議会を結成したわけで  
ございます。

それに対して果の方から一市町村平均九万一千円  
のいわゆる事務費として助成が参つたわけでござい  
まして、そのうち六万円づつ市町村が持ちまゝ  
この協議会に費用としてやつて参りたいということ  
で六万円で負担金として計上いたしたものでござい  
ます。次の農林統計協会の負担金四万円、これは当初予  
算におきまして組む予定であつたわけでござい  
ますが、漏れまして今回新たにお願いした次第でござ  
います。



旅費、需用費、役務費は先ほど申し上げました如く、  
協議会を持ちより分り六万円のものをそれぞれ計  
上いたしておりますので御了承願いと思います  
ます。

・消防本部次長（石渡東君）九款消防費について御説  
明申し上げます。

常備消防費の九万八千円を追加でございますが、  
旅費において三月までの不足額三万八千円を追加いた  
した。十節交際費費におきまして、歳末、年始の  
初め消防の諸行事が山積しております。

来客の接待等にも必要であるというところで三万円を願  
いいたしております。

十二節役務費におきまして、二十四節の投資及び公費  
金とからみ合わせて三万円、ダイヤル式になりまして一回



二月という使用料を取りますので、できれば、市役所の  
交換台から消防庁舎に一本内線を引きつけていただきたい  
そうすれば、ただで何回も使えるというところから、二、三  
追加をお願いいたします。

非常備消防に、おきましては、十一節ノ需用費、三月  
まで、見込み額四万、削減できるのではないかと、思  
いますので、更正財源としております。

役務費、保険料八千、可搬コンブの積載車その他  
車両も、ふえて参りまして、損害賠償保険が不足いた  
します。そこで追加いたします。

教委庶務課長（千場伊右エ門君）教育費について、御説明  
申し上げます。

教育費総体で、百二十三万四千、追加でございます。  
まず、教育総務費の三十万、これは中学校の集休

補助金といいたまいて当初二十万をお願いいたつてござ  
います。実際に旅費・宿泊費等が増加に伴ひまして  
五十四万用余支出するという状態でございます。非常  
に苦しい運営をされておるようでございます。あと二十万用  
の追加をお願いする次第でございます。

それから、安房地方に教育センターを誘致するというにと  
誘致促進協議会というのを安房郡市・市町村並びに  
関係機関で設けられておる。でございますが、この  
負担金として十万用をお願いする次第でございます。  
小学校費におきまして五十四万四千用。追加需用費  
消耗品で二万九千用。備品購入費で十一万二千用。理科  
教育の設備費、この二つは理振法によります。ところが  
備品費といいたまいて、当初予算で二十六万用を  
お願いいたつてございますが、それが四十万用ということに

たりまして十四万一千円を追加した次第でございます。

役務費が五万七千円、通信運搬費五万四千円、電話自動化に伴う三月までう分を見込みました。

保険料が三千万円というのはオートバイの保険料でございます。

十五節の工事請負費三十二万五千円、これは電気配線の工事でございます。那古小、館山市、豊房小、東京電力の配線診断の結果、改修を要すると言われたものでございまして、その額が八万五千円。火災被害報器が館山小、那古小、富崎小、豊房小と給食を行なっているところ。が余分に付けなければならぬということ。その費用が二十四万円でございます。

十八節、備品購入費二万一千円、消火器の購入費で、今回消火器の検定を行ないましたところ、百十六本中

七本中学校九本幼稚園一本、不合格品がとれわ  
けでございます。その煙め合わせでございまして小

学校が二万一千円

中学校費、二十八万二千円、十一節需用費、二十九万九  
千円、消耗品費、十二万四千円、これは技術家庭科の  
設備一応二千円未満は消耗品ということで備品費  
から更正でございます。

光熱水費で十七万五千円電気水道等年間消費量  
増加に伴いましてこの分だけお願ひする次第であります。  
役務費が十萬、電話の自動化に伴う増加分でござ  
います。

幼稚園費におきまして二万八千円、追加役務費が二万  
五千円は電話料の増加分でございます。

備品購入費が三千円は消火器の不台格分の購入で

でございます。

・社会教育課長(源間利一君)社会教育費について御説明申し上げます。

社会教育総務費でございますが、旅費に二万円、役務費に通信運搬費ということで電話の自動化並びに切手、葉書の購入代で四千万、合計二万四千万の補正でございます。図書館費でございますが、七節の賃金につきまして臨時用入料ということで当初計画にわけてございますが、日履並びに日数、変動ということで七万四千万計上しております。

光熱水費でございますが、電力消費量の増で一萬二千万計上しております。

役務費で電話の自動化並びに電話を要する業務の増ということで九千万。

十三節委託料、読書会に委託ということで委託すべき  
 適当な団体と折衝いたるわけでございますが、委託  
 を受けて下さる団体が見当りません関係で中止とい  
 うことで八万円を減額計上した次第でございます。

次に保健体育費でございます。保健体育総務費の  
 需用費で三万円、これは館山市が社年スポーツテス  
 트의予備調査、社年と申しますと三十九から五十九  
 までの男女の方々を対象に文部省が国民の体力  
 作りという中で社年スポーツテスト武案を作成中  
 でございますが、実際に予備調査をいたして武案  
 を得たいという趣旨のもとに本県におきまして関係  
 市町村が指定を受けたいわけでございますが、館山  
 市も中学校教員二十名、一般住民八十名により  
 実施ということの関係します。校医並びに一般住民に



対する医師の立ち会い、テスト員関係地区の公民館関係取員に対する必要経費という事で三万円計上したわけでございます。

体育施設費でございますが、プールや浄化装置や動力維持費という事で、月三千五百五十円、三カ月一万百五十円、従いまして一万一千円計上したわけでございます。

財政課長（長谷川大祐君）以上歳末の説明を終りまして、総額が千六百四十五万二千円という事に相なります。

歳入も御説明申し上げます。

四个担金及び負担金として児童福祉施設負担金七十万八千円、これは先ほど申し上げました歳末に関連をいたしまして生ずる収入でございます。従いまして、俗にいう保育園の月謝という様なものでございます。

六款国庫支出金、七款県支出金合わせて五百五十



二万三千円追加をいたしてございますが、これは、それぞの歳出計上額に対応する収入予算想額でございます。ただ例外として、商工費補助金として海水浴場整備補助金、二十九万九千円でございますが、これは当初予算に計上してございます。費目につきましては、この額を補助するということの決定が参りまいな。で、今回、歳出面におきまして、財源補正をいたしてまいります。

八款、財産収入として、四十三万一千円。これは、財政調整基金に對する利子でございます。一、年度中途で取りくずす予定でありまいが、そのまま積み立てております。二、入りの利息を収入して歳出に計上して積み立てるといふことで、四十三万一千円を収入してまいります。

繰り越し金として、九百七十九万計上してあります。

四十年、繰り越しといふことは、五千百九十三万八千

八百五十三円でございますが、このうち三千万のゴミ処理場  
に伴います繰り越しがございまして八百万円の一般財源  
の繰り越しがございまして繰り越し金として予算計  
上額の限度は四千三百九十三万八千五百五十五円ということ  
に相なります。

今回特定財源のほか大きなものがございせんので一般繰  
り越し金を財源として予算編成をいたしまして繰り越  
めに九百七十九万円を今回計上いたしまして繰り越  
し金として計上いたします額が総額で四千八十四万二千  
円ということになりまして未計上額が三百十万程度と  
いうことに相なっております。

以上歳入も千六百四十五万二千円になりまして歳入歳出  
差引き残金なりということに相なるわけでございます。  
以上で一般会計の説明を終らしていただきます。

保健衛生課長（池田亮山君）議案第六十八号国民健康保険  
特別会計、補正予算案について御説明申し上げま  
す。今回の補正は国保会計の直診勘定の中に三百  
九十二万八千円を追加いたしまして直診勘定を千三百  
三十四万円として合計二億千五百七万円といたいたとい  
うものでございます。なお本補正案は直診の最近  
の運営状況が好転して参りましてに参りまして不足  
を生じます薬剤費等の追加がおもなものでござ  
います。

各費目について明細書によって御説明申し上げたいと  
思います。

二ページ、歳出から一般管理費七十三万七千円が  
追加でございます。

八節の報償費九万二千円、これは臨時医師、例えば千

葉医大等から応援をいただきまして、医師の招聘を  
計上しております。

十一節 需用費 七万二千円 消耗品 燃料費 光熱水費  
その他不足を生ずる見込を計上しております。計上の  
とおり。

十八節 備品購入費でございます。五十七万三千円。  
このうち五十五万円が往診用の自動車にすぎずに老朽  
化による故障がちなものでございます。新車と交代いた  
すというものでございます。なお、その他二万三千円につ  
きましては、診療所内の諸器具の購入費でございます。  
次に二款の医業費でございますが、医療用の消耗材料  
医薬品、衛生材料、その他十万七千円、二百八十九万五千円  
追加しております。

次に検査委託料でございますが、十八万九千円、これは医療

センター等に患者治療に際します諸検査や委託料、  
不足見込み額でございます。

以上今回追加いたしますものが三百九十二万八千円で  
ございます。

次に歳入について御説明申し上げます。

一 款 診 療 収 入、入院収入、外来収入、合わせまして百  
八十八万九千円、補正でございます。

当初に見込みましたものよりも、程度、診療収入が  
伸びが見込まれますので、これを財源として充てたいと  
思っております。

次に寄付金でございますが、一般寄付金として十三  
万五千円でございます。

これは直診の医師が医療センターに技術研究に平  
後から参ります。それに対する技術奨励的な音

味から医療センターから寄付の申し込みがございまいたので、こゝを財源に充てたわけでございします。

諸収入十万円、更正でございしますが、こゝは先ほど申しました自動車、マツダキャロルを購入します。場合、現在の車の下取り額、十万円でございします。

以上合わせまして、歳入、補正が三百九十二万八千円でございします。以上でございします。

・衛生施設課長（吉田耕一君）議案第六十九号につきまして御説明申し上げます。

と畜場会計の補正でございしますが、今回七十万円を追加いたしまして、歳入、歳出とも四百九十二万円というたい。

このように考えてお願いしようというものでございします。まず、歳出事業費、一般管理費でございしますが、今回七十万円を追加しようというものでございします。



需要の伸びによりましてと殺頭数の増加でございます。今後二に要します。解体者、或いは補助者というものは者に対する賃金、不足を生ずるというものは見込みを立てたわけでございます。六十万円をお願いしようというものでございます。

二十五節の積み立て金でございますが、と畜場の施設につきまして近代資金積み立て金として当初二十万円を計上したわけでございますが、今回この程度なお積み立て金に戻わしておきたい。このように考えて今回計上したわけでございます。

この財源といたしまして事業収入とと畜場の使用料につきまして七十万円を見込んだわけで大体年度内今後見込みまして千四百頭はふえるというふうな見込みから七十万円を見込んだわけでございます。従いまして歳入歳出



とも、これによりましてゼロということでは補正をお願いしよう  
というものでございます。

議長(田中祿郎君)以上で各補正予算案の説明を終わります。  
た。

本日の会議はこれにて延会となります。

次会は明日を議案審査のため休会とし、明後十二月  
十五日午前十時開会となります。

その議事は通告質問、請願書、決算書、及び補正予  
算案の審議となります。

午後三時十三分 延会

本日の会議に付いた事件

一、開会

一、議長報告(出席説明者)

一、会議録署名員の決定

一、会期決定

一、市長議案提案説明

一、認定第一号乃至第八号

一、議案第六十三号乃至第六十九号

内容説明のみ

出席議員

吉田 勇治郎

鈴木 正一郎

小柴 孝

館石 伝蔵

田中 祿郎

秋山 六三郎

田村 源治郎

望月 照正

安西 益男

辻田 実

石井 正

菊井 敏博

志村信作

小沢惠太郎

関武夫

黒川佐太郎

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

萩生田七郎

鳴田繁

山田教字

鈴木市蔵

安藤亀吉

安沢徳順

三沢節

山本昇

松本藤太郎

山口康

欠席議員

高橋文治

